



戸定会会報

千葉大学園芸学部



フランス式庭園〔風景 秋更け行く〕1920年 板倉鼎 油絵 松戸市教育委員会提供

*「よみがえる画家板倉鼎・須美子展」松戸市立博物館で平成27年10月10日～11月29日開催します。松戸市で育った板倉鼎氏は、東京美術学校在学中に園芸学校のフランス式庭園や温室を描きました。大正期の園芸学校の資料としても貴重な作品となっています。

も く じ

特集「山男の歌」

「山男の歌」へのそれぞれの思い 伊東 正	(2)
歌い継がれる「山男の歌」とそのルーツを訪ねて 岩城干城	(3)
「山男の歌」の思い出と「坊がつる」 中島宏二	(4)
「山男の歌」作詞者を辿って 木村光一	(4)
大学の近況 松岡延浩/高垣美智子	(5)
学部の近況	(6)
新任挨拶 齋藤隆徳/霜田亮祐/永野博彦	(8)
活躍するOB (地域のリーダーとして)	
鈴木洋邦	(9)
北村新司/渡邊和明	(10)
鹿野新佐/石黒信生	(11)
加藤友規/鶴田志郎	(12)
熱川農場の思い出と現状 野間 豊/野田勝二	(13)
支部だより	(14)
会員からのたより 山崎 侃/川島東洋一	(15)

自書を語る

齋藤雪彦/齋藤 昭	(16)
浅見淳之/齋藤 修	(17)
丸尾 達/植原宣純	(18)
会長・副会長の活動報告	
伊東 正/加藤一郎	(19)
齋藤 修	(20)
戸定会講演会報告	(20)
就職支援について	(21)
平成27年度戸定会役員	(22)
平成26年度決算書	(23)
平成27年度戸定会理事会総会議事録	(24)
平成26年度寄付金ご芳名	(25)
戸定邸庭園の名勝指定と学部庭園	(26)
編集後記	(27)
訃報	(28)

編集兼——千葉大学園芸学部戸定会（郵便振替口座00180-0-34640）（加入者名：戸定会）

発行者 〒271-8510 千葉県松戸市松戸648番地

FAX・TEL 047-360-3662

印刷所——株式会社 廣済堂

園芸学部ホームページ (<http://www.h.chiba-u.jp/>)

〔執務日…月・木・金 留守番電話にはお名前・連絡先の

お電話番号をお願いします

E-mail: tojoukai@k6.dion.ne.jp

戸定会ホームページ (<http://www.h.chiba-u.jp/tojoukai/>)

伝統から学ぶ、仲間から学ぶ

植彌加藤造園(株) 社長 加藤 友規 (園経平2)

昭和61年(1986)4月、千葉大学に入学した私は4年間、造園の技術と経営の基礎を学びました。平成2年(1990)3月の卒業式では、卒業生総代として答辞を述べるという栄に浴したことを憶えております。



私の実家は創業嘉永元年(1848)の京都の老舗、「植彌加藤造園」です。南禅寺御用達庭師として創業し、私で八代目となります。父が67歳で急逝し、私は37歳の若さで経営を担うこととなりましたが、千葉大学の先輩方に励まして頂きまして、おかげさまで、家業は順調に成長してきました。

当社では、「伝統から学ぶ、仲間から学ぶ」という哲学を大切にしています。まずは、「伝統から学ぶ」ことです。京都には1200年の歳月の中で先達が蓄積してきた伝統があります。平安時代の『作庭記』にも、「むかしの上手のたておきたるありさまをあととして…」、すなわち、昔の名人の仕事を良き手本にすることを説いています。その上で、「家主の意趣を心にかけて、我風情をめぐらしたつへき也」と、施主の意向も心がけながら、自身の美意識で作庭することを説いています。現代に生きる我社の庭師も、『作庭記』の考え方を受け継いで修行に励んでおります。

次に「仲間から学ぶ」ことです。私のいう「仲間」とは、まずは、職場の仲間をいいます。当社では、老若男女を問わず、みんなが先生であり生徒でもあり、「メダカの学校」のようなものです。毎日15件程の現場が同時進行している中で、自分自身が携わる現場だけでなく、仲間が携わる現場からも実体験に近い学びができるように、チームワークを大切にしています。

次に学ぶ仲間とは、官・学・産すべての造園関係者です。私は、戸定会や二葉会の方々から多くのご指導をいただき、恩師といえる先輩方にも恵まれました。

おかげさまで、今、私はとても幸せです。私を信じてついてきてくれる多くの従業員たちに恵まれて、お客様にも恵まれて。これからも、母校千葉大学への報恩感謝の想いを胸に、造園サービス業の楽しさを満喫していきたいと思っております。